

ひもとく

新宗教の布教・宣教

佛教大学教授（宗教社会学）

大谷 栄一

一般信者の活発な活動が担う

新宗教を問う
近代日本人と救いの信仰
島蘭 進<著>

ちくま新書
1034円



おにさぶろう
出口なお・王仁三郎
世界を水晶の世に致すぞ
よ

川村 邦光<著>

ミネルヴァ書房
4180円



創価学会
政治宗教の成功と隘路
櫻井 義秀、猪瀬 優理
<編>

法蔵館
2530円



会員に投票を働きかけること
で、布教にも関連する。
ただし、猪瀬は学会員の考え
る「選挙活動と信仰」の関係に
は幅があるとして、信仰証明の
場から個人の判断まで八つのパ
リエーションを提起し、信者の
解釈の多面性を示す。

戸別訪問を重視

島蘭によれば、70年代に発展
した新宗教教団は現世否定的な
傾向が見られ、新新宗教と呼ば
れた。その一例として、キリス
ト教系のエホバの証人が挙げら
れている。山口瑞穂『近現代日
本とエホバの証人』（法蔵館・
3300円）は、その展開過程
と特徴を初めて実証的に明らか
にした研究である。

日本のエホバの証人は70年代
半ばから90年代半ばに伸張する
が、それを支えたのが、信者た
ちの宣教活動である。海外と比
べた場合、日本支部の特徴は、
戸別訪問等の宣教活動を優先す
る信者（開拓者）の多さと宣教
時間の長さである。その宣教の
あり方が世界本部との関係から
分析されている。

昨年7月の安倍晋三元首相銃
撃事件以降、宗教・世間題が頭
在化し、あらためて新宗教が注
目されている。これらの研究の
成果を通じて、新宗教に関する
理解が深まればと思う。

◇おおたに・えいいち 68年生
まれ。著書に『日蓮主義とはな
なんだったのか』など。



大本の聖地、京都府綾部市の梅松苑に立
つ礼拝神殿「みろく殿」112021年

ベストセラー・ランキングで
新宗教教団の指導者の著作をよ
く見かける。これは、信者が自
分で何冊も購入して知人等に献
本し、その指導者の思想や教団
の教えを広めようとする布教
（宣教）の現れである。「布教
・宣教」という切り口から、新
宗教の特徴を考えてみたい。
日本では1970年代以降、
新宗教研究が大きく進展した。
その成果をまとめたのが、井上
順孝・孝本貢・対馬路人・中牧
弘允・西山茂編『新宗教事典』
（弘文堂・品切れ）である。新
宗教の歴史や特色が体系的・網
羅的に整理され、基礎資料が収
録されている。

新宗教とは何かをわかりやす
く解説したのが、島蘭進『新宗教
を問う』である。その歴史は19世
紀初めから始まり、大きな勢力
に発展したのは1920年代か
ら60年代までだったと島蘭は説
明する。新宗教は病氣なおし（現
世利益）、心なおし（自己変革）、
世直し（社会変革）によって、現
世での救済をめざすという特徴
がある。一般信者が活発に信仰
活動を行い、布教の担い手にな
るといふ指摘も重要である。

メディアと選挙

戦前の新宗教で活字メディア
を用いた宣教に熱心だったの
が、神道系の大本である。その
軌跡と活動は、川村邦光『出口
なお・王仁三郎』に詳しい。
王仁三郎は新聞・雑誌の刊行
や展覧会の開催、映画の製作な
ど、積極的なメディア戦略を展
開した。第1次世界大戦の勃発
後、自前の印刷所を設けて出版
事業に着手。文書宣伝と街頭宣
教、公開講演によって教勢を伸
ばした。
25年創刊の「人類愛善新聞」

創価学会の公式見解としては、
選挙支援活動を分析している。
創価学会の「手段的目標」として、公明
党候補者の支援がなされる。選
挙支援は信仰と結びつき、非学